

2020年（令和二年） 10月23日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

10/8～10/14のNYMEX・WTI先物市場は、39.43～41.19ドルの範囲で推移した。

10月15日は、1日遅れの米国エネルギー情報局(EIA)の週報発表で、原油在庫が前週比380万バレル減、ガソリン在庫が160万バレル減となったものの、英・仏・スペインなどのコロナ感染再拡大で石油需要の先細り懸念から、わずかに反落した。11月限終値は前日比0.08ドル安の40.96ドル。

週末16日は、欧米の感染再拡大に対する警戒感から、小幅続落した。OPECプラスは15日開催の合同専門委員会(JTC)で、2021年の石油需要は供給過剰との見通しを示した。11月限の終値は前日比0.08ドル安の40.88ドル。

週明け19日は、サウジのアブドルアジズ・エネルギー相が市場の変化に対して「必要な手段をとる」とOPECプラスの2021年の現行の減産継続を示唆したものの、感染再拡大の懸念から、3営業日連続で小幅に続落した。11月限終値は前週末比0.05ドル安の40.83ドル。

20日は、米国の追加経済対策について、民主党のペロシ下院議長から合意への楽観的発言があり、景気回復への期待感から、4営業日ぶりに反発した。ただ、コロナ感染再拡大の懸念やOPECプラスの2021年の減産緩和観測が、上値を抑えた。11月限の終値は前日比0.63ドル高の41.46ドル。

21日は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で16日までの原油在庫は前週比100万バレル減少したが、ガソリン在庫が予想に反し100万バレル増加し、製品需要の先細り懸念が高まり、大幅反落した。今日から直近限月に繰り上がった12月限の終値は前日比1.67ドル安の40.03ドル。

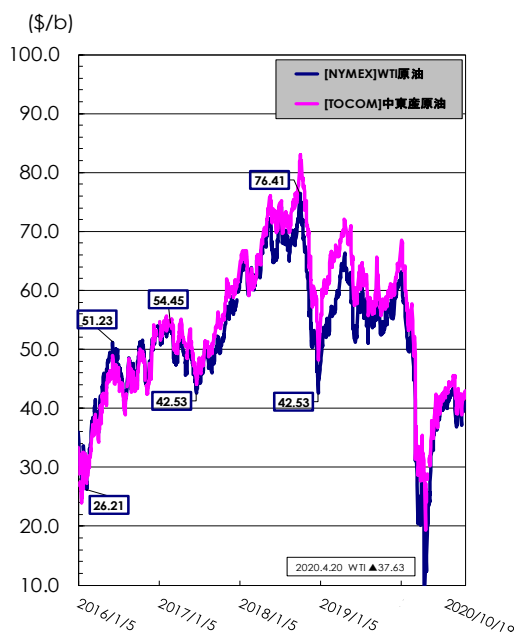
アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(12月渡し)は10月8日～14日の間41.20～42.30ドルの範囲で推移した。10月15日42.30ドル、16日41.90ドル、19日41.90ドル、20日41.90ドル、21日42.00ドルと推移した。

為替は10月8日～14日の間105.36～106.07円の範囲で推移した。10月15日105.26円、16日105.36円、19日105.40円、20日105.59円、21日105.41円で推移した。

財務省が10月19日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、9月下旬の原油輸入平均CIF価格は、30,810円/klで、前旬比196円安、ドル建て46.28ドルで前旬比0.23ドル安、為替レートは1ドル/105.86円。また、同日発表の貿易統計(速報・旬間)によると、9月の原油輸入平均CIF価格は、30,788円/klで、前月比1,809円高、ドル建て46.20ドルで前旬比2.78ドル高、為替レートは1ドル/105.95円

そのような中で、10月19日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値下がり、軽油は同横ばい、灯油は5円の値下がり(18%ベース)だった。ガソリンは5週連続の値下がり、軽油は5週ぶりに値下がりがとまり、灯油は2週連続の値下がりだった。この週(10月第3週)の原油コストはほぼ横ばいで、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに前週比据え置きとなった。

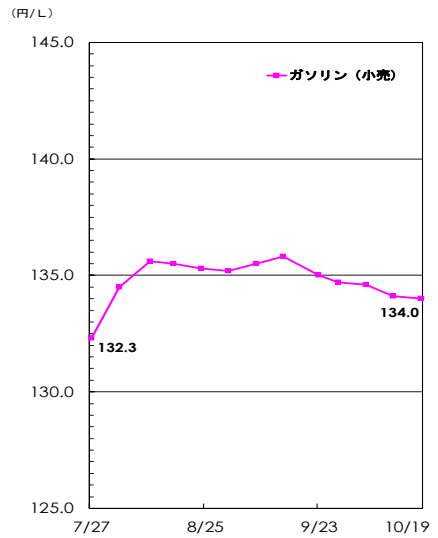
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/11～10/17	2,461 ▼-24	▼-
	トッパー稼働率 (%)	"	62.9 ▼-0.6	▼-
	原油在庫量 (千kl)	10/17	13,160 ▲29	▲-
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	10/19	42.90 ▲1.15	▼-14.7
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	10/19	40.83 ▲1.40	▼-12.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月下旬	46.28 ▼-0.23	▼-18.02
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	30,810 ▼-196	▼-12,320
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	105.86 ▲0.14	▲0.78
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/19	106.40 ▲0.26	▲3.12



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/11 ~ 10/17	811 ▼ -24	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	780 ▲ 51	▲ -	
	輸出	"	51 ▼ -2	▼ -	
	在庫	10/17	1,868 ▼ -19	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/13 ~ 10/19	43.0 ▲ 0.4	▼ -13.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/13 ~ 10/19	39.2 ▼ -0.3	▼ -15.8
		(TOCOM/中部)	10/19	41.3 ▲ 0.2	▼ -14.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/19	134.0 ▼ -0.1	▼ -12.8	

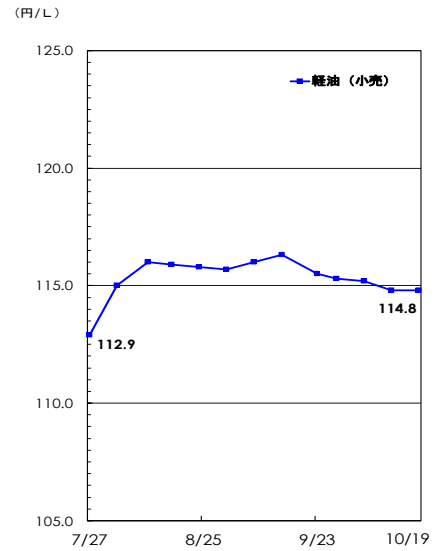
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

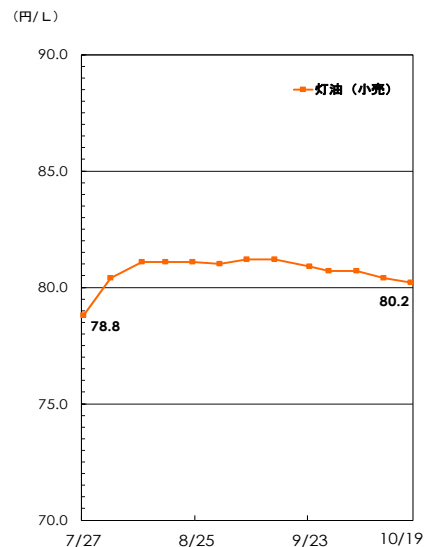
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/11 ~ 10/17	584 ▼ -44	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	589 ▲ 49	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -10	▼ -	
	在庫	10/17	1,575 ▼ -4	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/13 ~ 10/19	45.5 ▲ 0.3	▼ -13.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/13 ~ 10/19	47.0 ▼ -0.5	▼ -14.3
		(TOCOM/中部)	10/19	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/19	114.8 → 0.0	▼ -12.5	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/11 ~ 10/17	202 ▲ 3	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	188 ▲ 16	▲ -	
	輸出	"	32 ▲ 7	▲ -	
	在庫	10/17	2,955 ▼ -18	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/13 ~ 10/19	45.2 ▲ 0.2	▼ -13.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/13 ~ 10/19	42.4 ▼ -0.2	▼ -14.8
		(TOCOM/中部)	10/19	44.3 ▲ 0.3	▼ -13.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/19	80.2 ▼ -0.2	▼ -11.6	



■ 関連情報

1 海外/原油

10月21日のNYMEXのWTI先物原油は大幅反落した。同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で16日までの原油在庫は前週比予想通り100万バレル減少したものの、ガソリン在庫が予想に反し100万バレル増加し、製品需要の先細り懸念が高まった。加えて、欧米におけるコロナ感染の再拡大の状況、2021年のOPECプラスの減産方針の不透明感が売りを加速した。一時は、39.78ドルと40ドルの大台を割り込んだ。12月限の終値は前日比1.67ドル安の40.03ドル、1月限の終値は同1.66ドル安の40.31ドル。

EIAによると、10月19日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.7セント値下がりの1ガロン2.150ドル(60.4円/ℓ)、

ディーゼルは同0.7セント値下がりの2.388ドル(67.0円/ℓ)となった。ガソリンは2週連続の値下がり、ディーゼルは2週ぶりの値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年10月11日～10月17日に休止したトッパー能力は85.5万バレル/日で、前週に対して0.0万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は246.1万klと、前週に比べ2.4万kl減少。前年に対しては52.6万klの減少。トッパー稼働率は62.9%と前週に対して0.6ポイントの減少、前年に対しては13.4ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油、A重油、C重油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/2.8%減、ジェット/5.7%減、灯油/1.3%増、軽油/7.0%減、A重油/5.7%増、C重油/18.8%増。今週のC重油の輸入は0.5万kl(前週比1.5万kl減)。軽油の輸出は0.0万kl(前週比1.0万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でA重油、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではA重油、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は78.0万kl(対前週7.0%増)と3週振りで増加した。ジェット8.2万kl(対前週49.5%増)、灯油18.8万kl(対前週9.1%増)、軽油58.9万kl(対前週9.0%増)、A重油14.6万kl(対前週10.8%減)、C重油11.8万kl(対前週0.9%減)。

(単位:千kl)

	今週 (10/11 ~ 10/17)	前週 (10/4 ~ 10/10)	前週比	
ガソリン	780	729	▲ 51	(7%)
ジェット燃料	82	55	▲ 27	(49%)
灯油	188	172	▲ 16	(9%)
軽油	589	540	▲ 49	(9%)
A重油	146	163	▼ -17	(-10%)
C重油	118	119	▼ -1	(-1%)
合計	1,903	1,778	▲ 125	(7%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月17日時点の在庫は、A重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェット、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは186.8万kl、前週差1.9万kl減。前年に対しては24.8万kl多い。

灯油は295.5万kl、前週差1.8万kl減。前年に対しては20.2万kl多い。

軽油は157.5万kl、前週差0.4万kl減。前年に対しては21.2万kl多い。

A重油は75.3万kl、前週差0.8万kl増。前年に対しては3.0万kl多い。

C重油は179.5万kl、前週差1.9万kl減。前年に対しては14.9万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (10/17)	前週 (10/10)	前週比	
ガソリン	1,868	1,887	▼ -19	(-1%)
ジェット燃料	824	843	▼ -19	(-2%)
灯油	2,955	2,973	▼ -18	(-1%)
軽油	1,575	1,579	▼ -4	(-0%)
A重油	753	745	▲ 8	(1%)
C重油	1,795	1,814	▼ -19	(-1%)
合計	9,770	9,841	▼ -71	(-0.7%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月13日～19日の原油価格は前週比でわずかに値下がりし、為替レートはわずかに円高で、円建ての原油コストはほぼ横ばいと見られる。

次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社、据え置きとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

10月13日～19日の製品スポット市況は、10月6日～12日平均と比べ、先物各油種の値下がりを除いて、陸上・海上の全取引で値上がりした。

直近(10/13～10/19)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週(10/6～10/12)比で、ガソリンは0.4円の値上がり、灯油は0.2円の値上がり、軽油は0.3円の値上がりだった。直近(10/13～10/19)において、ガソリンは96円台でわずかに値上がり、灯油は45円台でわずかに値上がり、軽油は45円台で値上がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近(10/13～10/19)に、前週比で、ガソリンは0.4円の値上がり、灯油も0.4円の値上がり、軽油は0.6円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間(10/13～10/19)に、ガソリンは97～98円台で値上がり、灯油は43円台でわずかに値上がり、軽油は46～47円台で値上がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.3円の値下がり、灯油も0.2円の値下がり、軽油も0.5円の値下がりだった。先物価格は、同期間(10/13～10/19)に、ガソリン92～93円台で値上がり、灯油42円台でわずかに値上がり、軽油46～47円台で値上がりして推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー 4地区平均]	今週 (10/13～10/19)	前週 (10/6～10/12)	前週比
	レギュラー	43.0	42.6
灯油	45.2	45.0	▲ 0.2
軽油	45.5	45.2	▲ 0.3

(TOCOM) (単位: 円/%)

先物価格 [平均]	今週 (10/13～10/19)	前週 (10/6～10/12)	前週比
	レギュラー	39.2	39.5
灯油	42.4	42.6	▼ -0.2
軽油	47.0	47.5	▼ -0.5

※上記価格は税抜き価格

参考値 (10/13～10/19実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.4	▼ -0.3	→ 0.0
灯油	▲ 0.2	▼ -0.2	→ 0.0
軽油	▲ 0.3	▼ -0.5	▼ -0.1
A重油	▲ 0.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

10月19日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安の134.0円、軽油は同横ばいの114.8円、灯油は18%ベースで同5円安の1,443円(1%ベースでは80.2円で同0.2円安)。ガソリンは5週連続の値下がり、軽油は5週ぶりに値下がり止まり、灯油は2週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは12県、横ばいは7道県、値下がりが28都府県となった。全国最安値は127.5円の徳島県(前週比0.5円高)と宮城県(同0.2円高)、最高値は長崎県(同0.5円高)の144.2円。最も値上がりしたのは、同1.6円高の愛知県(134.0円)、横ばいは鹿児島県等

7道県、最も値下がりしたのは、同1.4円安の沖縄県(140.6円)だった。

今週(10月13日～19日)は、原油価格はわずかに値上がりしたが、為替レートはわずかに円高で、円建ての原油コストはほぼ横ばいと見られる。次週(10月22日～28日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社据え置きとなった。次回調査時(10月26日)のガソリンの小売価格は、横ばいが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (10/19)	前週 (10/12)	前週比	直近高値
レギュラー	134.0	134.1	▼ -0.1	08/8/4 185.1
灯油	80.2	80.4	▼ -0.2	08/8/11 132.1
軽油	114.8	114.8	→ 0.0	08/8/4 167.4

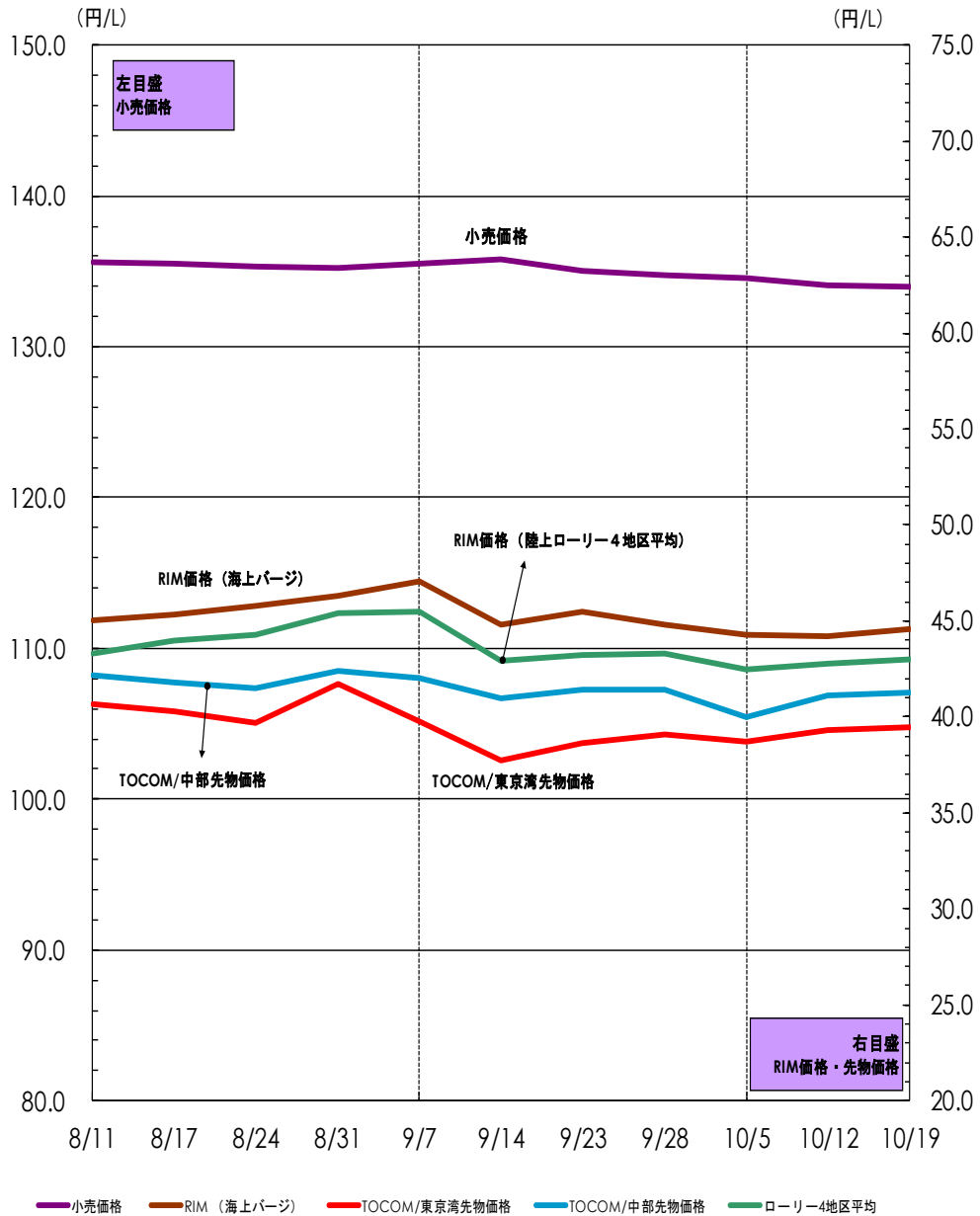
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2020/8/11 ~ 2020/10/19)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2020第17号)の公表は、10/30(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。